第２節　これまでのごみ処理の進捗状況

循環型社会の構築に向けた３Ｒ指標及び地球温暖化防止に向けた環境負荷の指標に対する進捗状況は、次のとおりです。

表２－４　第３次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画ごみ処理基本計画３Ｒ指標・環境負荷の指標（平成 28 年（2016 年）10 月策定時）及び実績値

【３Ｒ指標】

３Ｒ指標（目指す方向）	基準年値 平成 26 年度（2014 年度）	実績値 令和元年度（2019 年度）	令和７年度（2025 年度）目標値 平成 26 年度比（2014 年度比）
ごみの排出量（－）	66,922 t	58,123 t	58,282t（約 13%削減）
資源化率（＋）	48.2%	52.1%	約 53%
焼却量（－）	37,284 t	29,993 t	28,854 t（約 23%削減）
うち家庭系	25,823 t	20,204 t	18,789 t
うち事業系	11,461 t	9,789 t	10,065 t

【環境負荷の指標】

環境負荷の指標（目指す方向）	基準年値 平成 26 年度（2014 年度）	実績値 令和元年度（2019 年度）	令和７年度（2025 年度）目標値 平成 26 年度比（2014 年度比）
温室効果ガス排出量（－）（二酸化炭素換算）	15,799 t-CO_2	11,911 t-CO_2	9,188 t-CO_2（約 42%削減）

＊令和７年度目標値は、本計画策定時（平成 28 年（2016 年）10 月）に定めた数値を記載しています。
＊温室効果ガス排出量の実績値（令和元年度（2019 年度））の計算方法は、p8 参照。

(1) ごみ総排出量

令和元年度（2019 年度）のごみの総排出量は、基準年度の平成 26 年度（2014 年度）から 13.15%削減の 58,123t であり、令和７年度（2025 年度）の目標値である 58,282 t にあと 159 t まで減量が進んでいます。これは、市民や事業者の協力はもとより、平成 27 年（2015 年）４月からの家庭系ごみの有料化や事業系ごみの分別徹底など排出事業者への訪問指導等による削減効果と考えられます。

しかし、新型コロナウイルス感染症対策の観点から新たな生活様式が進む中、家庭系ごみの増加が見られるため、今後のごみの排出状況を見据えながら対応策を検討する必要があります。

(2) 資源化率（リサイクル率）

令和元年度（2019 年度）の資源化率は、基準年度の平成 26 年度（2014 年度）から 3.9 ポイント増加の 52.1%であり、令和７年度（2025 年度）の目標値である約 53%まであと一歩のところまで資源化が進んでいます。これは、製品プラスチックなど新たな資源化品目の拡大や、分別に対する市民や事業者の協力による結果と考えられます。

今後は、生ごみ及び紙おむつの新たな資源化に向けて、施設整備や処理手法及び分別の徹底など市民や事業者の理解と協力が得られるよう、進めていく必要があります。

(3) 焼却量

令和元年度（2019 年度）の焼却量は、基準年度の平成 26 年度（2014 年度）から 19.56%削減の 29,993ｔであり、令和７年度（2025 年度）の目標値である 28,854ｔにあと 1,139ｔまで減量が進んでいます。これは、ごみの総排出量と同様に、市民や事業者の協力はもとより、家庭系ごみの有料化や事業系ごみの排出事業者への訪問指導によるものと考えられます。

ごみの総排出量でも記述したとおり、焼却量の増加要因があることから今後のごみの排出状況を見据えながら、対応策を検討する必要があります。

(4) ごみ焼却に伴う温室効果ガス排出量

令和元年度（2019 年度）の焼却量から試算する温室効果ガス排出量は、基準年度の平成 26 年度（2014 年度）から 24.6%削減の 11,911ｔ-CO_2となっています。